



大網ロータリークラブ Club Weekly Bulletin



- クラブ創立：2000年1月13日
- 例会日：水曜日（12：30～13：30）
- 例会場：中部コミュニティセンター
TEL 0475-73-3337 FAX 0475-73-4360
- 事務所：〒299-3251
大網白里市大網 450-6 ユアサビル2階
TEL 0475-70-0200 FAX 0475-70-0222
- 会長：石田 英世 幹事：高野 祐二
- 広報・公共イメージ向上委員会
委員長 大越 将司・会報担当 石田 英世

2024年8月7日(水)
第26巻第 6号

通巻第1080号

<http://www.oamirotary.com>
E-mail : rc@oamirotary.com



本日の例会

点 鐘 会長 石田 英世
唱 和 四つのテスト
ソング 奉仕の理想
会長挨拶 会長 石田 英世
幹事報告 幹事 高野 祐二
プログラム

1. 奨学金授与式
2. 8月誕生日祝い
鈴木文夫会員・齋藤幸男会員
泉 恵子会員
3. 理事会報告



なし

例会日	7月31日	7月17日
会員数	30	30
出席	16	16
欠席	14	14
M U	0	0
免除	8	7
出席率	80%	77%

会長挨拶

石田 英世 会長



みなさん、こんばんは。
猛暑が続く毎日ですが体調はいかがでしょう。こういうときですが、いい知らせが入りました。入院されていた西岡会員が30日退院されたそうです。まだリハビリを続ける必要があるということで、例会に出てこられるまでにはもう少し時間があるようです。お元気な姿での再会をお待ちしたいと

思います。

今日は石田・高野年度初の夜間移動例会です。楽しく食べて、飲んで英気を養い、この暑さを乗り越えましょう。

納涼夜間移動例会

7月31日(水) 古民家食堂 もちづきにて



① 8月 7日(水)

通常例会 点鐘 12:30

理事会中部 CC 11:45

例会案内

- 奨学金授与式 ハオ シャンシャン様
- 8月誕生日祝い
鈴木文夫会員・齋藤幸男会員
泉 恵子会員
- 理事会報告

② 8月14日(水) → 休 会

③ 8月21日(水)

通常例会 点鐘 12:30

卓話者 田辺 様 踊り 6名

☆ 8月24日(土) → 奉仕プロジェクト
セミナー

場所: 三井ガーデンホテル千葉

<出席者>

齋藤幸男奉仕プロジェクト委員長・綿貫副
委員長

清宮満巖職業奉仕リーダー

矢部社会奉仕リーダー

関谷国際奉仕リーダー

3名程度の出席を考えております。

調整は、委員長、副委員長にお任せします。

④ 8月28日(水)

通常例会 点鐘 12:30

卓話者 福話術マジシャン 齋藤 和文 様



最新ロータリーレポート

2024年8月 ロータリーレポート

1ドル = 154円

「育む」ということ

仕事や事業に多忙な日々を送る人々にとって、ロータリーに入会することは、本来出会えない多様なバックグラウンドを持つ人々と知り合い、心を通わせ、人生を語り合う仲間が増えるという、素晴らしい機会を得ることだと考えます。多くのロータリアンは 真摯で誠実であり、社会的な影響力を持ち、円満な人間関係を築ける方々であり、その人生観や職業観に触れることは、我が人生においてもかけがえない経験です。

そして、そのようなロータリアンや、ロータリアンが集うクラブは、常に地域や世界の為に奉仕を実践しています。「意義ある事業の基礎として、奉仕の理念を奨励し、それを育む…」人を気遣う心を持つことが、やがては事業を繁栄させ、自分の人生を豊かにしてくれているのではないのでしょうか。しかし最近、その受動的な思いだけではいけないとも考えるようになりました。

「育む」ということは、大切に守ってそれを大きなものへと成長させる意味を持つと聞いております。ロータリアンとして培ったこの思いを、多くの人々にも理解していただき、理念を共有する仲間をみいだしていくことも大切な使命であると感じます。

そのためにはどのように私たちはあるべきなのでしょうか？

多様なバックグラウンドを持つ仲間は、多様な考え方をもち、多様な価値観を持っているのは当然 のことであり、それを真摯に受け止め受容していく のは必然であると考えます。またその異なる価値観や思考を、正当に理解し、常に輝ける存在として見守ってあげることも必要です。そのような仲間が集えば、クラブは非常に居心地の良い包容力を持った組織へと昇華していくのではないのでしょうか。そして、そのクラブに対する帰属意識が芽生えた頃には、新たな仲間が自然にできるように思います。

国際ロータリーの提唱する DEI (Diversity, Equity, Inclusion) は、まさにこのような組織のあり方を推奨しているものであり、今後は帰属意識 (Belonging) も加味した DEI+B の精神が必要であると説いているのではないのでしょうか。皆様方はどのようにお考えになりますか？

「第3の道」

「資本の論理」に躍らされた荒涼とした社会から、心豊かな人生を過ごすべく立ち上がった 善良な人々は、その理念を 100 年以上にわたり醸成し、多様な人々が集うワールドワイドな組織へと成長させて参りました。しかしながら、巨大な組織へと成長することは、官僚的管理組織が確立されていくことと同義であり、抗えない結果だと理解しなければなりません。

そこで我々日本のロータリアンはどのような道を選択していく べきでしょうか。巨大な組織を否定し、理想を追求した人々だけが集う独自の組織を模索していくのでしょうか。

それとも中央集権的で画一的でありながらも、世界に存在する奉仕団体のリーダーとして、巨大化していく道を選択するのでしょうか。

国際ロータリーの「地域化 Regionalization」の推進に伴うガバナンス構造変革の動きは、この疑問に一定の解決策を提示するかもしれません。その基本は、地域化 (Regionalization) を 推進するとの基本方針の下、国際ロータリーの ガバナンス構造をリビルドするものであると聞いております。文化、言語、地理やニーズに基づいた Region (地域) を大切にしていくことが、「地域化 Regionalization」の根本だとも説明されています。

言うなれば、巨大な組織に成長しながらも、地域ごとの価値観や思考は、地域に委ねるとの 考え方であり、「職業奉仕」を大切に育ててこられた会員が多く集う日本のロータリーの独自性も後世へ成長させていける可能性がでてきました。

100年にわたり醸成されてきた「職業奉仕の 理念」を大切にすロータリー観も育みながら、世界の一員として実践的奉仕活動中心のロータリー観も並立させる「第3の道」がここに開かれたと、私は勝手に想像しています。

我々の大先輩である 佐藤千壽さんは、著書「人作りのロータリー」の中で、各地域が自由 裁量権を持つ半独立組織になる「第3の道」を考えておられました。多様化に対処する現実的な解決策としても妥当な道かもしれないと、暗示されておりました。

組織のガバナンス構造がどんなに変わろうとも、主役はクラブであり、ロータリアンの皆様であることに大きな違いはないと私は感じております。組織の成長を妨げようとする変革は、やがては頓挫することは歴史が証明しています。私は、2024年からオーストラリア地域とグレートブリテン地域で行われているパイロットを暖かく見守っていきたいと思います。